



エコキャンドル



No.89

平成23年12月15日発行

たるみず

市議会だより

平成23年第3回定例会

一般質問	2～7
議案等の審議結果	7～8
公営企業決算特別委員会審査結果報告（9月5日）	8～10

発行／垂水市議会
編集／垂水市議会だより編集委員会
鹿児島県垂水市上町114番地
Tel 0994-32-1111（内線358）

一般質問

平成23年第3回定例会は、9月5日から9月28日まで24日間の会期で開かれ、13日・14日の本会議で11人の議員が一般質問をおこない、うち11人より「市議会だより」の原稿提出がありました。

- 紙面の都合により主な項目について、質問と答弁の要旨を質問者の文責により掲載しております。
- 掲載の順番は質問順（質問通告書提出順）です。
- 詳細につきましては、図書館、両支所、各地区公民館、市役所2階の情報公開室にあります「会議録」をご覧ください。
※本市のホームページでもご覧いただけます。（会議録は12月上旬より閲覧できます。）



垂水中央中学校の現状(体罰)について！ 垂水高校存続のための動向について！

堀内 貴志 議員

問

9月9日の朝刊で、垂水中央中学校で体罰があるとの記事が掲載。それによると殴った蹴った回数などがそれぞれ1回ということですが、私が調査した生徒たちは、いずれも複数回殴られ、複数回足蹴りをされていたと話しています。他の生徒たちは目撃した状況をどのように話しているのか。体罰の当日、母親が学校側に問い合わせたら担任は全く事実を把握しておらず、説明があったのは3日後、学校側から教育委員会に報告があったのは5日後と聞いているが報告連絡の遅延はなかったのか。

これからは体罰があつてはならない、再発防止を含め教育界のトップとしての教育長の責任の在り方について説明を求めます。

答

体罰についての内容に食い違いがあるということは、教育委員会でも把握している。2人の生徒に対して複数回の体罰を行っていたことから、10発叩いた、5回蹴ったなどと話す生徒もいたことも把握している。男性教諭が体

罰をしたことは紛れもない事実。体罰を受けた保護者からの指摘で管理職が初めて把握したということも事実。迅速かつ誠意ある初期の対応ができなかったことは大変申し訳なく、残念に思っています。

教育行政を預かるトップとして指導して参りましたが、結果的にこの事案が起きたということは、私の指導が至らなかつたと深く反省しています。体罰を受けた生徒さん、そして保護者の方には心よりお詫び申し上げます。今後の体罰の再発防止については教職員が、児童生徒の人権に対する意識を高めること、体罰を否定する指導観を持ち、お互いに注意し合う雰囲気をつくることなど教職員と児童生徒間の望ましい関係を築いて心に届く指導をしていきたい。

(その他の質問事項)

○垂水高校存続のためのこれまでの取組みと経過について。特に民間がやっている事業でいい事業について行政はどのように支援していくのか？



しおかぜ街道事業、 垂水港に屋根付き駐輪場

北方 貞明 議員

問

「魅力ある観光地づくり事業」の中で本年度の「しおかぜ街道」の整備区間はどこか。また、新城宮脇から柘原方面への整備について。

答

本年度の整備区間は3ヶ所、1ヶ所目は、垂水漁協隣の桜公園から中俣川までの遊歩道整備。2ヶ所目は、市の文化財で牛根麓地区の稲荷の鳥居、この鳥居は大正3年の桜島の大爆発で埋没した鳥居の周辺整備で駐車場、遊歩道、ベンチ、展望広場設置を行う。3ヶ所目は垂水港駐輪場の屋根や遊歩道の整備で垂水港をサイクリングやウォーキングの拠点として整備を行なう。

柘原方面への遊歩道整備は護岸内に違法建造物があることから、県の見解では撤去しない限り整備できないとのこと。

問

修学旅行受け入れの垂水市での経済効果はどの程度か。

答

垂水市漁協の漁業体験5校で882名、民泊6校895名で1泊2泊の宿泊数を合計すると全部で1557泊となり、経済効果は約1900万円となる。

問

民泊の食材セットについて。

答

民泊の食材セットの取り扱いについては、今後民泊受け入れ部会で協議していく。

問

環境問題で、先般知事はマニフェストに掲げた中で汚水処理施設人口普及率が80%の目標値に達していないと反省されていたが、市では奄美市の91・8%、鹿児島市で90・2%だが、垂水市の浄化槽人口普及率はどの程度か。また、今後の浄化槽施設の取組みは。

答

平成22年度まで合併浄化槽は2340基、単独浄化槽が2930基、汲み取りが2237世帯で、平成22年度末で汚水処理人口普及率は45・5%となっている。今後は下水道集落処理浄化槽の新たな設置は困難なことから、合併処理浄化槽の設置の促進を図り、家庭及び事業所について個別の状況を勘案し、特に機能低下等の単独処理浄化槽は、生活環境の保全、水質汚濁低減のため合併処理浄化槽への促進に努め、小型合併処理浄化槽設置整備の推進を行なっています。



秋の産業祭



田平 輝也 議員

南中学校跡地利用の経過は？ 廃屋と荒れた宅地の対策は？

問 南中学校の跡地については3月議会また6月議会の質問で、鹿屋のクリニックスの院長から介護施設関係や物販施設などを開設したいとの要望書がきているとのことでしたが、その後の経過はどうか伺います。

答 南中学校跡地については生産物直売所、飲食施設、駐車場をつくるということで国の補助金などを利用して事業を実施する計画を進めてまいりました。そのようなか、鹿屋市の事業者より垂水南中学校跡地に特別養護老人ホーム、診療所、物産館、レストランなどを設置したいので南中学校跡地を譲渡してもらいたいと提案がありました。市としては、よい提案であり相手方と数回交渉いたしました。その一方で、市として今年度を実施予定であった農山漁村活性化事業の補助を活用した物産館等建設の計画は中止と決定しました。7月に相手方より最終の条件が示されましたが市として考えている条件と大きく隔たっており、示された条件での南中学校跡地の譲渡はできないと決定しました。再度、中学校跡地活用を検討してまいります。

問 空き家バンク制度は素晴らしい制度ですが、その実績は。また、本市でも廃屋や荒れた宅地などが多く見られます。倒壊した廃屋の解体に一部でも助成などできないか伺います。

答 平成17年度より22年度まで、47世帯118人が市外から本市へ移住されておられます。廃屋や荒れた宅地等の相談、苦情が昨年1年間で33件です。近隣市で廃屋解体除去の補助に取り組んでいる曾於市では、解体の補助金は22年度の予算が1千700万円です。工費の30%、最高30万円と聞いております。本市における廃屋解体撤去助成制度等の確立に前向きに推進したいと考えております。
(その他の質問事項)
○太陽光発電の補助について



森 正勝 議員

道の駅の指定管理者が芙蓉商事・薩摩おごじよ企画に決定！

問 道の駅について、新しい管理者との施設管理計画はどのようになっているのか教えていただきたい。

答 7月25日に開催されました臨時議会により、株式会社芙蓉商事・薩摩おごじよ企画グループに10月1日より指定管理させることに議決をいただいたところで、その後、指定管理者決定の通知を行ない、8月に入り、同グループから市へのあいさつがあり、8月17日に従業員への会社概要と採用に関する説明会が開催されました。一方、出荷者協議会への説明につきましては、協議会の役員会の開催に合わせて、8月29日に行なうところであり、今後現在の予定としましては、現在策定中の協定書につきまして、今月下旬に策定を終え、10月1日付で協定を行なう予定でございます。審査基準に示された個別項目のうち、採用に關する職員や従業員への配慮や労働条件の適正化につきましては、全従業員の再雇用を提示

して説明を行っており、賃金等につきましても臨時職員・パート従業員につきましては、これまでの平均的な賃金である時給700円を提示しているところです。職員につきましては、5名を11名にする予定であります。

問 支え合う地域のきずなプロジェクトについて説明をお願いします。

答 今回の事業は、平成23年度単年度事業として国の介護基盤緊急整備事業等臨時特別基金が県に交付され、市に補助金として交付されるもので、自治体・住民組織・NPO・福祉サービス事業所との協働により、先進的、パイロット事業の立ち上げを支援することにより日常的な支え合い活動の体制づくりの推進を図ることを目的に実施される事業であります。垂水中央病院を核として、市内開業医・調剤薬局・訪問看護ステーション等をICTネットワークシステムで構築するものであります。



第35回垂水市市民文化祭



桜島の活動が活発だ 降灰対策事業の充実を

川畑 二郎 議員

問

台風12号は記録的な豪雨で甚大な被害をもたらした。どこでも起こりうる状況である。河床整備をすることで災害を縮小することになると考えます。飛岡川は、以前台風で地域に大きな被害をもたらした。河川費も計上されています。河床整備については、今後の計画は。

答

補正予算で牛根麓の松ヶ崎川、新城馬形川の一部、飛岡川については、危険度の高いところの一部について実施、中浜川については県で実施していただくこととなっています。鶴田川については、来年度の河床整備の中に盛り込みたいと考えます。

問

鶴田川上流の砂防ダムは堆積した土砂が、満杯状態で下流の地区住民にとっては大変心配です。地区住民の会合で、土砂除去の要望がありました。土砂除去はできないのか。

答

土砂除去については、地元から要望を伺っております。所管の県へも通知はしております。

流域に住宅地があり危険度の高い堆積土砂の除去が図れるよう努めてまいります。

問

市道の整備について、計画路線について。

答

以前より要望のあった市道田地明垂桜線の舗装の改修、中元垂水集落道、柘原西一集落道の側溝敷設並びに舗装、市道小浜大浜線の側溝改修の一部着手、また協和地区から要望のあった市道和田飛岡線は通学路でもあり、生活に密着した道路でもある。整備すべき路線として小学校の南側の市道と共に安心、安全を図るという観点からも実施できるよう努めます。

問

鉄道跡地、農道のり面の除草について。

答

以前より要望のあった海潟鉄道跡地と脇登地区の除草作業については実施の予定であります。のり面の除草について両サイド2メートルの除草予定であります。残りは、中山間地域等直接支払事業等でお願いたします。



垂水市の人口増対策について

川越 信男 議員

問

垂水市の市制施行以降、人口の推移は現在どのような状況にあるのか、10年間隔で教えてください。また、人口減少の原因は何なのか、行政としてはどのように検証されているのかお尋ねします。

答

昭和33年10月市制施行当時3万4千780人、10年後の昭和44年は2万7千253人、20年後の昭和54年は2万4千249人、30年後の平成元年は2万2千616人、40年後の平成11年は2万3千133人、50年後の平成21年は1万7千523人、直近の平成23年9月は1万6千948人となっております。人口減少の原因を昭和56年から平成22年までの30年間で見ると自然動態で、出生が5千41人、お亡くなりになられた方が8千290人であり、この差が3千249人、社会動態で、転入が2万5千84人、転出が2万9千344人で、この差が4千260人で、30年間では7千509人の減、率で31.3%の減となっております。

問

市職員の方々で市外居住者は何人いらっしゃるのか。また、独身者は垂水市に居住するようお願いできないものか見解をお聞かせください。

答

消防職員を含め、職員252名中6名が市外に居住しております。採用と同時に市内居住を条件としておりますが、この市外居住者の場合は、垂水市職員の服務規定によりまして市外通勤の承認を得て市外から通勤しております。

問

新光寺地区の船渡瀬橋下流、既設石積み護岸のかさ上げ改修整備はその後、どうなっているのかお伺いいたします。

答

大隅地域振興局河川港湾課は、緊急度の高い箇所として、今年度予算で追加要望を申請しているところですが、今年度中に盛り込めなかったとしても、来年度事業へ優先順位を上位として要求する予定でございますと確認をいたしましたところでございます。



第37回垂水市福祉大会



求められている市民の気持ちに 寄り添った市政運営

持留 良一 議員

問 改定介護保険法が成立した。その内容は新たな給付抑制を盛り込むなど、利用者・家族に重大な影響を与えるものとなっている。来年度、介護保険料が値上がりすると命と暮らしを壊すことになりかねない。値上反対の署名陳情も提出されているが、受け止めと保険料値上抑制対策について。

答 高齢者の多くが介護・外出・将来への生活不安をもっている。幅広い施策への取組みが必要と考える。国においては保険料は概ね1000円程度の増額を見込んでいる。保険料値上反対の署名陳情は重く受け止めている。値上げはできるだけ避けたいと考えている。サービス等の充実と保険料の設定とのバランスを考慮して対応していきたい。

問 厚生労働省は平成19年に放課後児童クラブガイドラインを策定した。対象児童について「4年生以上の児童も加えることができれば」とした。要望も寄せられているがどのように対応していくのか。

答 指摘のとおり4年生以上も保育可能としている。特別な事情を有するものでなくても保育が必

要であれば入所が可能である。垂水小児童クラブは空き教室の関係で拡充ができていく状況にある。条件等も含めて今後協議していきたい。

問 昨年6月に国は「学校のアレルギー疾患に対する取組みガイドライン」について「通知」を出した。報告書では「アレルギー疾患はまれな疾患ではなく、各種のアレルギー疾患を持つ児童生徒がいることを前提とした学校保健の取組みが求められている状況にある」としている。学校給食での取組み、効果があるといわれている温水シャワー対策について。

答 学校給食については保護者や学校から対応を求める声もあり、実施可能な対応策と実施マニュアルを検討中である。

特別支援学級設置校の2小学校においては、温水シャワー設置を進めており、設置後は活用が可能かと考えている。

(その他の質問事項)

○自然エネルギー対策

○特別養護老人ホーム対策

○市営住宅問題

○指定管理者の採用



華厳園の民営化、市長の関与は？ 法令遵守上問題では！

感王寺 耕造 議員

問 華厳園へのアザレア経営参画申し入れについて、保健福祉課長、市長は介入を行なったのか。華厳園については、社会福祉法人垂水福祉事業協会で運営がなされ、市とは全く関係のない施設である。法令遵守の点からも問題があるのでは。

答 7月7日、アザレアからの打診があり、7月11日、20日、27日、庁内の経営会議に諮ったところ、アザレアは、市の要望を受けて宿泊施設として開業いただいた経緯があり、市は相互協力する立場にあることから、市の方針としては、当事者をテーブルに十分協議していただき、判断してもらったことにはない。特別な介入をしたわけではない。

法令遵守については、経営会議でも華厳園の参画問題は組織が違うということ、市としては関わることができないとの意見も出された。

問 昨年の口蹄疫、本年生食による食中毒事件、原発事故によるセシウム牛問題で肥育牛農家の

経営は逼迫しています。市単独での経営支援策は考えられないのか。

答 市内産子牛の市場性を高め肥育農家の経営安定を図るための肉用牛地域内一貫経営促進事業による助成の増額を、9月議会に上程させていただきました。また、垂水市畜産振興会と垂水市肉用牛部会から要望書の提出がありました。畜産振興資産貸付金の無利子化と資金の増額につきまして、現在、市から農協への貸付利率1.5%を水産振興資金と同様に1%に平成24年度から引き下げの予定です。資金の増額につきましては、農協の意向や貸し付け状況を考慮して今後検討してまいります。

(その他の質問事項)

○第5期高齢者福祉計画・介護事業計画の見直しは。

○防災無線等の情報伝達のインフラ整備について



フェスタ in たるみず



子どもたちに「いついふいつやう」
「おかえり」の声かけを！

池山 節夫 議員

問

公共サービスを市民自身やNPOが主体となり提供する社会、または考え方を「新しい公共」と呼びます。新しい公共では市民も公共サービスの提供者となるし、行政は市民にその場所を提供し、信頼して権限を移譲することが求められます。この「新しい公共」の考え方の中で、地域で見守る子育てについて質問します。

答

人口千人当たりの出生率を過去5年間の率で言いますと、国が8・6、県が8・74、本市が6前後で推移し、比較しますと低い水準で続いています。児童虐待については、本市の虐待事案として4件把握しております。貧困率については、日本の貧困率が高い理由の一つとして女性の賃金が低いことが挙げられます。行政として、物の豊かさという環境づくりをしながら、心を豊かに暮らせる垂水づくりに頑張りたいと考えております。

問

子供と本をつなぐガイド役を務め、授業に必要な図書

備に当たる学校図書不在の小・中学校が半数以上で、これは垂水市内でも同様です。学校支援施設としての学校図書館が、その機能を十分に果たしているか、環境整備に取り組み必要があるが、現状と課題について伺います。

答

学校図書室への司書補の配置につきましては、新城小と柘原小で1人、垂水小1人、水之上小と協和小で1人、松ヶ崎小・牛根小・境小で1人、中央中1人の計5名配置しています。兼務している学校では週2日勤務となり、司書補不在の日がでてまいります。担任や読書指導係りの先生で対応しております。

問

防災について、枕崎市は市内全域を標高別に色分けした津波対応マップを作成しました。錦江湾内で1914年に湾奥でM7・1の地震が起きています。津波対応マップについて見解を伺います。

答

今年度内に作成し、全戸配布を計画しております。



平成22年度決算
まれにみる好結果

池之上 誠 議員

問

平成22年度決算は、まれにみる好結果として評価されているが、財政状況の推移と分析、財政調整基金の適切なあり方、また、大地震・豪雨災害などの大規模な復旧事業が見込まれる中、今後の交付金等の動向・本市への影響について伺います。

答

一般会計決算は、歳入額97億5千万円、歳出額94億300万円で、実質収支3億3千700万円の黒字、実質単年度収支5億7千500万円の黒字、経常収支比率は10年ぶりに90%を下回る87%、貯金に当たる財政調整基金の積立額前年度比約3億9千万円増の10億200万円、借金に当たる市債残高は、前年度比約3億円減の103億円となり、健全化判断比率等も国の基準をクリアしている。地方交付税の増額等の好条件もあったが、これまで取り組んできた行財政改革の成果が表れたものと考えられる。財政調整基金は、元来、貯めすぎても、少なすぎてもいけない。標準財政規模の10%〜15%が適正規模と説明してきたが、

財務省は、償還確実性を確認する観点から、ストック面を重視し、4財政指標を算出し、地方公共団体の状況把握を実施している。本市も財務事務所の診断を受け、積立金等月収倍率という指標で、積立金残高が1・1か月分であり、基準値3か月(20億円)に比較して、危険な水準にある指摘を受けた。普通交付税については、国勢調査の人口減などから、1億8千800万円減、特別交付税については、被災地以外は相当減額される可能性が高いという説明がなされている。厳しい状況が予想されるが、節減に努めるとともに、市民ニーズに対しては、緊急性・必要性に応じ、予算措置は講じていく考え方である。

問

垂水中央中学校の現状について伺います。

答

今回の体罰の件は大変遺憾であったが、生徒のあいさつ・一分前着席30秒前黙想などの取り組み、教職員一枚岩となった、きめ細かな指導により落ち着いていると考える。



垂水高校よさこい



「元気な垂水市づくり」に
市長はどのように取り組むのか！

篠原 静則 議員

問

市長は熱い思いで垂水を元気にすると頑張っておられるが、元気な垂水づくりには多岐にわたり、数え切れないほどの課題があると思う。一つ目が、人口減少問題。二つ目が、基幹産業である農業、漁業問題。農業では降灰による露地栽培の被害や後継者不足、漁業では、長引く不況による漁価の低迷や燃料の高騰。さらに損失補償の打ち切りなど。三つ目が、財源不足による公共事業の減少で建設業の廃業や建設従事者の減少問題がある。このような現状の中で、市民の命を守る、財産を守る、生活を守るための対策は？

答

若い力で元気な垂水づくりのため公約として5つの公約を掲げている。安心・安全な垂水のまちづくり、行財政改革断行、垂水ブランドの販路拡大、医療介護・教育・福祉の充実、桜島道路実現を掲げ、元気な垂水のまちづくりに取り組んでいく。安心・安全は垂水づくりの基本となることから、災害対策などは、早めの対応を行い不安の解消を目指す。行財政改革は単独市政運営のために耐えられる組織づくりや財政づくりのために各課へ指示しており、サービステラを招かないように機構改革なども検討する。垂水ブランド販路拡大については、ある程度ブランドや基盤整備が整った水産業から取り組む、農畜産業については、インゲン・キヌサヤ、ビワなど初め、牛や豚、鶏など、豊富な食材を加工し、新たな販路拡大につなげる。損失補償については、いろんな角度から検討したが難しいようである。損失補償に代わる貸付金を2億円に増額する。医療介護・教育・福祉の充実については、特に重い政策であり、元気で長生きして頂くために、さまざまな検討をさせている。桜島道路の実現については、将来の元気な垂水づくりを考えたときに重要な課題と考えている。大隅期成会でも共通の課題でもあることから、関係市町と連携して、県の意向を考慮しながら国等に訴えていきたい。

平成23年第3回定例会に付議された事件審議結果一覧

番号	件名	審査結果
報告 第10号	専決処分の承認を求めることについて(平成23年度垂水市一般会計補正予算(第4号))	承認
報告 第11号	専決処分の承認を求めることについて(平成23年度垂水市と畜場特別会計補正予算(第2号))	承認
議案 第45号	平成22年度垂水市水道事業会計決算認定について	認定
議案 第46号	平成22年度垂水市病院事業会計決算認定について	認定
議案 第49号	垂水市教育委員会委員の任命について	同意
議案 第50号	垂水市職員特殊勤務手当支給条例の一部を改正する条例 案	原案可決
議案 第51号	垂水市税条例等の一部を改正する条例 案	原案可決
議案 第52号	垂水市交通災害共済条例の一部を改正する条例 案	原案可決
議案 第53号	消防本部電源照明車購入契約について	原案可決
議案 第54号	平成23年度垂水市一般会計補正予算(第5号) 案	原案可決
議案 第55号	平成23年度垂水市国民健康保険特別会計補正予算(第1号) 案	原案可決



かかしコンテスト

議案	第56号	平成23年度垂水市介護保険特別会計補正予算(第1号)案	原案可決
議案	第57号	平成23年度垂水市病院事業会計補正予算(第1号)案	原案可決
議案	第58号	平成23年度垂水市漁業集落排水処理施設特別会計補正予算(第1号)案	原案可決
議案	第59号	平成23年度垂水市簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)案	原案可決
議案	第60号	平成23年度垂水市水道事業会計補正予算(第1号)案	原案可決
議案	第61号	平成22年度垂水市一般会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第62号	平成22年度垂水市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第63号	平成22年度垂水市老人保健医療特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第64号	平成22年度垂水市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第65号	平成22年度垂水市交通災害共済特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第66号	平成22年度垂水市地方卸売市場特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第67号	平成22年度垂水市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第68号	平成22年度垂水市老人保健施設特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第69号	平成22年度垂水市と畜場特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第70号	平成22年度垂水市漁業集落排水処理施設特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
議案	第71号	平成22年度垂水市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	継続審査
決議案	第1号	交通事故防止に関する決議案	原案可決
決議案	第2号	川内原子力発電所に関する決議案	原案可決
意見書案	第2号	原発依存から自然エネルギーの本格的導入を求める意見書案	原案可決
陳情	第3号	川内原発増設計画の中止などを求める意見書の採択について	継続審査
陳情	第4号	TPP(環太平洋連携協定)交渉参加反対に関する陳情書	継続審査

公営企業決算委員会
委員長報告(6月5日)

平成23年度第2回定例会において、公営企業決算特別委員会に付託されました、議案第45号平成22年度垂水市水道事業会計決算認定について、及び議案第46号平成22年度垂水市病院事業会計決算認定について審査の経過と結果について報告いたします。

審査にあたりましては、予算が議決した趣旨と目的に従って適正に、そして、効率的に執行されたかどうか、問題点はなかったか、そして、どのような行政効果が発揮できたか、そのことでの後の行財政運営においてどのような改善工夫が必要かを重点に置いて審査しました。

さらに、計数的なことについては監査委員の監査を十分に尊重し、決算報告書、監査意見書に基づいて審査をすすめ、関係課長の説明を求めながら予算執行の実績を確認し、その適否について慎重に審査いたしました。

それでは、両決算の主な質疑について申し上げます。

まず、最初に水道事業会計決算の審査について報告します。平



医師会との現地懇談会

成22年度の水道事業会計の方針は国道整備に伴う配水管敷設やライフラインの機能の確保や災害に強い管路網の構築を図り、パイプ管の整備を実施し、信頼性と安全性の向上を目指すことでした。

審査は、営業収益が左右される給水人口が減少する中で、経営の安定性や健全性を念頭に置きながら行ないました。その中で出された主な質疑では、一つは給水人口が減少する中での経営問題について質疑があり、経営努力と今の経営健全状態を継続していくとの回答がありました。

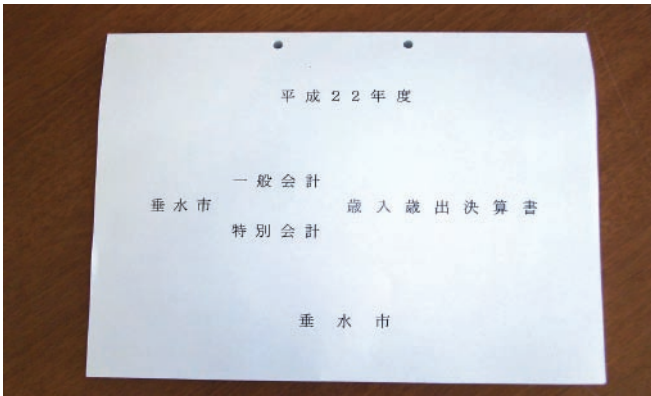
次に業務実績に関して有収率が数年前と比較して下がっていることについて、老朽管や石綿管の更新は終わったが古いビニール管が残っており、その漏水が徐々に起きている可能性があることや、個人の給水管からの漏水も考えられると回答があり、漏水対策の必要性も明らかにしました。

剰余金処分については、減債基金の増額と建設改良積立金が減額になったことについて質疑がありました。回答として建設改良積立金については内ノ野浄

水場の改修工事が完了したこと、今後大きな支出がないとの見込みで積立はしなかったということでした。

減債基金については、規定に基づき積み立てたという回答がありました。さらに歳出では、利率繰上げ償還の計画について質疑があり、今後も計画的に償還していく方向であることが回答としてありました。

次に、病院事業会計決算での質疑について報告します。平成22年度の病院事業会計の方針は、医師不足の現状にあるというこ



とを指摘し、経営的には黒字を維持はしているが、採算面できわめて厳しい状況にあることも指摘しています。

そこで経営努力として、開放型病院として機能充実を図るため、市内開業医との協力と、地域医療連携を重点に更なる医療サービスの提供に努めるとしています。これらがどのように具体化されたのか、結果はどうだったのかを観点として審査しました。

まず、歳入に関する質疑で、外来患者数が減少していることについての回答として、病床利用率が増え、入院の収益が増えたこととありました。これについては看護体系を10・1から7・1に変えて手厚い看護方法にしたということとです。これにすると診療報酬が高くなるということが理由としてあげられました。

次に介護施設との関係で病院経営のあり方について質疑があり、垂水市としては在宅医療を徹底していく方針である回答がありました。そして、介護施設への転換が進んでいく傾向にあるが医療病床の存続を求めて医師会とも協議していきたいと方針が示されました。

次に病院と市との関係について質疑があり、今、病院と将来的なあり方もふくめて検討していくと提案もあり、いい方向に展開していくのではないかと抱負が語られました。

以上主な質疑について申し上げます。

まとめとして、水道事業会計について監査委員の指摘とし、収益の基礎となる給水人口が減少傾向にあります。さらに、改良事業等による減価償却費及び新たな企業債の借入れによる企業債償還等の増加が見込まれる状況にあるのでさらに健全な財政運営に努めるように指摘しています。

また、病院事業会計については、平成16年度から7年連続で純利益を出してはいますが、医療制度の動向や意思・看護師不足で患者数の減少も心配されます。監査委員が指摘しているように肝属医師会と市との連携の強化、質の高い医療の提供が求められています。

これらを克服していくためにも、財政運営の改善と健全化に努めていただきたいと思います。そして、安心安全な水道水の提



第35回垂水市市民文化祭

供と安心安全な医療サービスの提供に努められるよう求めるものです。

以上の質疑や内容をふまえ、本委員会としては両決算とも適正であると認め、認定することを決定しました。

また、平成22年度垂水市水道事業剰余金処分決算書案及び、平成22年度垂水市病院事業欠損金処理計算書案についても、原案のとおり可決することに意見の一致をみました。

以上で報告を終わります。

編集後記

先月末、大阪の市長と府知事のダブル選挙が行われ、「大阪維新の会」の橋下徹氏と松井一郎氏のコンビが他の政党の支持を得ていた対立候補に勝利し、当選した。

大阪はもともとタレント議員や知事が多いということ知られている土地である。「ノリと面白さ」が第一ともされており、政治論争よりも、橋下氏が「好きか、嫌い」が選挙に影響したのは否めなところである。だが、選挙というのは、「この人にやってもらいたい」と思われるかどうかも重要

であり、国の政治への強烈なメッセージになったのではないだろうか。現代の政治に対する閉そく感と不信に英雄待望論が沸き起こってくるのも当然だろう。

橋下氏の政治手法は、「自ら課題を打ち出して「白か黒かをつける」というものである。橋下氏は「独裁」も必要であると主張しており、多数決であれば公平であろうと言いが、多数決とは決定方法のひとつであり、結果が正しいかどうかというものは保証してはいない。現状を打破するために大阪は一種の賭けにでたのかもしれない。

小泉元首相への熱狂的な支持も、今冷静になってみれば、疑問符が残ることに後に気付くことがあった。橋下氏にはそうならないことを祈るばかりである。

市議会へ行くついで

平成23年第4回定例会会期日程

- 11月 28日 本会議
- 12月 6日 一般質問
- 12月 7日 一般質問
- 12月 9日 産業厚生委員会
- 12月 13日 総務文教委員会
- 12月 15日 議会運営委員会
- 12月 16日 本会議

※本会議は、市役所3階の議会

傍聴席にて傍聴できます。

※委員会の傍聴は、委員長の許可が必要です。

※11月28日、12月16日の本会議は午前10時から、一般質問及び各委員会は午前9時30分からの開会予定です。

※市などへ意見や要望があるときは、だれでも請願書や陳情書を市議会に提出することができます。請願は市議会議員の紹介を必要としますが、陳情の場合は必要ありません。なお、定例会前の議会運営委員会前日までに受け付けたものが、その会期中に審査されます。

※陳情・請願の審査結果については、結論の出た陳情・請願は結果を郵送で回答します。

日程は変更になる場合がありますので、議会事務局までお問い合わせ下さい。

編集等についての御意見、ご感想等がございましたらお気軽にお寄せ下さい。



お問い合わせは

垂水市議会事務局

☎ 32-11111 (358)

メールアドレス

gikai@city.tarumizu.jp

※ お詫び ※

※ 今回は諸般の都合により、発行が遅れて誠に申し訳ありませんでした。



会議録の閲覧について

議会の内容を記録している「会議録」につきましては、図書館・牛根支所・新城支所・各地区公民館・市役所2階の情報公開室にありますので、ご覧ください。

※ 垂水市のホームページでもご覧いただけます。